

3年次・シラバス

令和6年度 山形県立左沢高等学校 シラバス 3年次目次

P	科目名
67	論理国語
68	古典探究
69	文章デザイン
70	世界史探究
71	日本史探究
72	地理総合
73	地域史
74	政治・経済
75	数学Ⅱ
76	数学B
77	数学一般
78	化学
79	生物
80	地域の自然
81	体育
82	音楽Ⅲ
83	ピアノ実習b
84	ポピュラー
85	デッサン基礎
86	英語コミュニケーションⅡ
87	論理・表現Ⅱ
88	英語会話
89	中国語会話

P	科目名
90	情報Ⅱ
91	課題探究（農業）
92	草花
93	果樹
94	食品製造
95	植物バイオテクノロジー
96	生物活用
97	課題研究（商業）
98	財務会計Ⅰ
99	ソフトウェア活用
100	保育基礎
101	生活と福祉
102	フードデザイン
103	スポーツⅤ
104	総合的な探究の時間

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
国語	論理国語	3	全系列	必履修			2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○未定 □未定 △国語辞典		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を高める。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	1. 自己を見つめる 2. 思考を深める	・社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を読み、それらの内容を基に、自分の考えを論述したり討論したりする。 ・学術的な文章を読み、具体例の妥当性や因果関係についての検討をし、根拠を吟味する。
	期末 考査 まで	3. 社会に向かって 4. 視点を変えて	・設定した題材について資料を収集し、調べたことを整理して説得力のある意見を書く。 ・複数の文章を読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりして自分の考えを持つ。
2 学期	中間 考査 まで	5. 問いを深めて書く	・多角的・多面的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にした意見を書く。
	期末 考査 まで	6. 現代を考える	・社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を読み、それらの内容を基に、自分の考えを論述したり討論したりして考えを深める。
3 学期	年度末 考査 まで	7. 未来に目を向ける	・関心を持った事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり報告書などにまとめたりする。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
国語	古典探究	3	教養	選択	2年で古典探究を履修した者のみ	最大10名・ 最少 1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○未定 □未定 △古語辞典		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を高める。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期		【古文】随筆 【古文】文法事項の復習 【漢文】逸話	- 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりする活動。 - 古典に用いられる語句の意味や用法を理解する活動。 - 内容を的確に捉え、作品の価値を考察する活動。
	期末 考查 まで	【古文】日記文学 【古文】評論 【漢文】小説	- 内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりする活動。 - 他の作品との関係を踏まえながら読み、内容の解釈を深め、作品の価値について考察する活動。 - 書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価する活動。
2 学期		【古文】物語 【古文】歴史物語 【漢文】史伝	- 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりする活動。 - 作品の成立した背景を踏まえながら読み、内容の解釈を深め、作品の価値について考察する活動。 - 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める活動。
	期末 考查 まで	【古文】説話 【漢文】文章 【古文】近代随筆	- 日本の文化の特質に関する理解を深める活動。 - 漢文の特性を踏まえて、構成や展開などを的確に捉える活動。 - 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価する活動。
3 学期	年度末 考查 まで	【古文】近代小説 【漢文】漢詩	- 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。 - 漢詩の言葉の響きやリズム、表現の特色について理解を深める活動。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
国語	文章デザイン	3	教養	選択	なし	最大10名・ 最少 1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
なし		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を高める。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期		- 自己紹介文・他者紹介文を書く - 説明文を書く - 表現の工夫について学ぶ	- 適切な題材や材料を選んで文章を作成する活動。 - 事柄の配列や表現方法を意識し、相手に伝わりやすい文章を作成する活動。 - 多様な表現方法とその効果を理解する活動。
		- 意見文を書く - 自己PR文を書く - 小論文を書く	- 自分の考えを相手に納得させるための適切な表現を工夫する活動。 - 目的や場に応じた効果的な表現を工夫する活動。 - 構成の仕方やテーマに応じた論の展開を理解する活動。 - より良い表現について考え、文章を練り上げる活動。
2 学期		- 志望理由書を書く - 模擬面接 - お勧め図書のPOPを作る - 論証の仕方について学ぶ	- 自分の考えや学ぶ意欲を相手に伝えるために適切な構成や表現を工夫する活動。 - 説得力のある論証方法や構成を理解する活動。 - 面接に適した言葉遣いや態度を理解する活動。 - 自己と向き合い、自己を客観的に捉え、論理的な構成や展開を考えて話す活動。 - 読書に親しみ、自分のものの見方、考え方を広げる活動。
		- 小論文を書く - レポート・報告書を書く - メディアリテラシーについて学ぶ - 研究論文を書く	- 自分の考えを相手に納得させるための適切な構成や表現を工夫する活動。 - 必要な情報を精選し、伝わりやすい適切な言葉を選んでレポートや報告文を作成する活動。 - IT社会の利便性と危険性について理解する活動。 - 図書やインターネットを利用し、各自のテーマに沿って必要な情報を収集する活動。
3 学期		研究論文を書く	- 多様なメディアから資料の妥当性や信頼性を考え、内容を選択している活動。 - 自分の考えを根拠に基づいて的確に表現する活動。 - よりよい表現について考え、文章を練り上げる活動。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
地歴	世界史探究	3	教養	選択	2年次に必ず同じ科目を履修していること	最大15名・ 最少4名	4
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○「新詳 世界史探究（帝国書院）」 □・・・検討中 △「暗記」ではありません。「みて、考え、自分で語れるようになる」学習をします。		世界各地の歴史を通史的に俯瞰しつつ、各地域・時代に特有の、あるいはそれらを越えて共通する問題に気づき、それらを「今の・これからの自分たち」に与えられた課題として探究的な取り組みを通して認識を深め解決への糸口を見出す。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	IV・諸地域の結合・変容	環大西洋革命～工業文明と国民国家の誕生 イギリスの覇権と英米の国民国家建設
	期末 考査 まで		世界の一体化の進展とアジアの変容 世界の一体化の完成とその影響
2 学期	中間 考査 まで	IV・諸地域の結合・変容	世界大戦の時代 戦後の国際秩序と冷戦
	期末 考査 まで	V・地球世界の課題	冷戦の展開と平和の模索 グローバル化する国際社会とその課題
3 学期	年度末 考査 まで	V・地球世界の課題	情報と科学技術によって結びつく世界 地球世界の課題の探究

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
地理歴史	日本史探究	3	教養	選択履修	2年次に「日本史探究①」を履修した者全員	最大40名・ 最少3名	4
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○・・・検討中 □・・・検討中		日本の歴史を通史的に俯瞰しつつ、各地域・時代に特有の、あるいはそれらを越えて共通する問題に気づき、それらを「今の・これからの自分たち」に与えられた課題として探究的な取り組みを通して認識を深め解決への糸口を見出す。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	第Ⅱ部中世	第6章「武家政権の成立」 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化
	期末 考査 まで	第Ⅱ部中世 第Ⅲ部近世	第7章「武家政権の成長」 第8章「近世の幕開け」
2 学期	中間 考査 まで	第Ⅲ部近世 第Ⅳ部近代・現代	第9章「幕藩体制の成立と展開」 第10章「幕藩体制の動揺」 第11章「近世から近代へ」
	期末 考査 まで	第Ⅳ部近代・現代	第12章「近代国家の成立」 第13章「近代国家の展開」 第14章「近代の産業と生活」 第15章「恐慌と第二次世界大戦」
3 学期	年度末 考査 まで	第Ⅳ部近代・現代	第16章「占領下の日本」 第17章「高度成長の時代」 第18章「激動する世界と日本」

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
地理歴史	地理総合	3	全系列	必修			2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○、□・・・検討中		・世界各地の生活文化の多様性について、自然環境や社会環境とのかかわりに着目しながら考察する。 ・地域によってどのような課題があるかを知り、いかなる国際協力が必要なのかを自らの課題として提案していく。 ・防災への取り組みについて、地域的な視点から災害と防災についての課題を考察する。 ・地理的な見方・考え方や地図に関する技能を身につけ、私たちの暮らしと、地域の自然環境や社会、文化との関わりを考える。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動	
1 学期	中間 検査 まで	1部 地図や地理情報システム でとらえる現代世界	1章 地図や地理情報システムと現代世界 2章 結びつきを深める現代世界	
	期末 検査 まで	2部 国際理解と国際協力	1章 生活文化の多様性と国際理解	
2 学期	中間 検査 まで	2部 国際理解と国際協力	2 章 地球的課題と国際協力	
	期末 検査 まで	3 部 持続可能な地域づくり と私たち	1章 自然環境と防災	
3 学期	年度末 検査 まで	3 部 持続可能な地域づくり と私たち	2 章 生活圏の調査と地域の展望	

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
地歴	地域史 (学校設定科目)	3	教養	選択	なし	最大15名・ 最少6名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○なし □担当教師が準備 △校外学習に関して実費負担（「青苧御膳」の食事代・約1,500円）があります。		・地域社会の歴史的成立過程とその生活と文化の特色を理解した上で諸資料を吟味・考察し、その結果をまとめ、表現する。 ・国家・社会の一員として、生きるために必要な知識を獲得し、自ら考える能力を育成する。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	期末 考査 まで	1 旧石器時代～平安時代の「地域史」	・各時代の代表的な事件や歴史遺産を、他地域の動向と関連させて学習する。 (校外学習含む)
		2 鎌倉時代～戦国時代の「地域史」	
2 学期	定期考査の代わりにレポート製作と発表	3 江戸時代～明治以降の「地域史」	
		4 校外学習のまとめ	・1学期～2学期の校外学習についてグループ毎にレポートを作成・発表し、生徒相互の評価と自己評価を行う。
3 学期		5 「あなたの地域の」歴史・文化	・自分の住んでいる、あるいは出身地の市町村の歴史・文化に関わる個人レポートを作成・発表し、生徒相互の評価と自己評価を行う。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
公民	政治・経済	3	教養	選択	なし	最大 20名・ 最少 4名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○、□・・・検討中 △公民関係の”一般常識”の確認と、それに関する探究的学習を実施します。		社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を探究する活動を通して、グローバル化する国際社会で主体的に生きるために必要な公民としての資質を養う。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	期末 考査 まで	I・現代日本の政治・経済の諸課題	1・現代日本の政治・経済 日本国憲法と現代政治のあり方 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方 市場経済の機能と限界 持続可能な財政および租税のあり方 金融を通じた経済活動の活性化 経済活動と福祉の向上
2 学期	期末 考査 まで	I・現代日本の政治・経済の諸課題	2・現代日本の諸課題の探究 少子高齢化と社会保障、地域社会の自立、など
		II・グローバル化する国際社会の諸課題	1・現代日本の政治・経済 国際法の果たす役割 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割 相互依存関係が深まる国際経済の特質 国際経済において求められる日本の役割
3 学期	年度末 考査 まで	II・グローバル化する国際社会の諸課題	2・国際社会の諸課題の探究 グローバル化、環境・エネルギー問題 国際経済格差、 持続欠こうな国際社会づくり、など

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
数学	数学Ⅱ	3	全系列	選択	2年次からの継続	最大40名・ 最少1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○最新数学Ⅱ（数研出版） □パラレルノート（数研出版） △進学試験などで数学が必要な生徒、数学が得意な生徒に選択して欲しい。		・指数法則に連続性を与え、指数関数として捉えることができる。 ・対数関数を利用し、極小の数、極大の数を考察することができる。 ・微分法と積分法を用いて、直線と曲線の関係を理解することができる。 ・数学Ⅱを通して、数学の良さ、結びつきを考察することができる。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	第5章 指数関数と対数関数	・既習の指数法則を、指数が負の場合、有理数の場合に拡張し、四則演算をすることができる。 ・既習の指数法則に連続性を与え、指数関数として捉え、方程式、不等式の処理をすることができる。
	期末 考査 まで		・指数関数を理解し、その逆関数である対数関数の概念を理解することができる。 ・対数関数の性質を理解し、極小の数、極大の数について考察することができる。
2 学期	中間 考査 まで	第6章 微分法と積分法	・極限値の概念を理解し、微分係数の計算をすることができる。 ・微分法の計算を理解し、関数の増減についての考察から、方程式や不等式を関数のグラフを用いて計算処理することができる。
	期末 考査 まで		・積分の概念を理解し、微分法と積分法の関係から、式の処理を考察することができる。 ・積分法と曲線で囲まれた図形の面積の関係を理解し、様々な図形の面積を求めることができる。
3 学期	年度末 考査 まで	課題学習	数学Ⅱまでで学習した内容を発展させ、これまで学習した数学全般の内容との結びつきを考察することができる。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
数学	数学B	3	全系列	選択	2年次からの継続	最大40名・ 最少1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○最新数学Ⅱ（数研出版） □パラレルノート（数研出版） △進学試験などで数学が必要な生徒、数学が得意な生徒に選択して欲しい。		・規則性のある数の並びを考察し、一般項や和を求めることができる。 ・確率で学んだことに連続性を与え、統計的な推測をすることができる。 ・これまで学んだことを融合させ、社会生活における数が意味することを考察することができる。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	第1章 数列	・等差数列と等比数列の性質を理解し、その一般項を求めることができる。 ・等差数列と等比数列の性質を考え、その和を計算することができる。
	期末 考査 まで		・Σ記号の有用性を理解し、等差数列や等比数列の和の公式を応用させ、Σの公式を作ることができる。 ・Σの公式を活用することで、様々な規則性の数列について考察することができる。 ・等差数列や等比数列の一般項の考察から、漸化式概念を理解し、一般項を求めることができる。
2 学期	中間 考査 まで	第2章 統計的な推測	・数学Aで学んだ確率を活用し、確率分布表から期待値、分散、標準偏差の値を求めることができる。 ・数学Aで学習した反復試行の確率の求め方を活用し、二項分布について考察することができる。
	期末 考査 まで		・正規分布の特徴を理解し、正規分布表から確率を求めることができる。 ・正規分布表の考え方を活用し、母集団の平均などを統計的に推測することができる。
3 学期	年度末 考査 まで	第3章 数学と社会生活	第1章で学ぶ数列、第2章で学ぶ統計的な推測やこれまでの数学の学習で得た知識を活用し、社会生活における数の意味を理解する。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
数学	数学一般	3	全系列	共通			2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
□ ベストステップ数学ⅠA		- 既習の知識を活用し、文章を読み取り、計算処理をすることができる。 - 既習の知識の本質を考え、方程式と関数の結びつきを考察する。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	- 実数の四則演算 - 比と歩合	≪主に中学校までの計算のおさらい≫ - 四則演算の約束事を理解し、正確に計算処理をすることができる。 - 割合について、語句の意味を理解し、計算処理をすることができる。 - 平方根の計算法則を理解し、工夫をして計算処理をすることができる。
	期末 考査 まで	- 展開公式 - 因数分解 2次関数	≪主に数学Ⅰまでの式の処理のおさらい≫ - 展開公式や因数分解の公式を理解し、様々な計算処理に活用することができる。 - 因数分解や平方完成の計算を活かし、2次関数のグラフから、最大値と最小値を読み取ることができる。
2 学期	中間 考査 まで	1次方程式 - 連立方程式 2次方程式 - 不等式 - 連立不等式	≪主に数学Ⅰまでの方程式と不等式のおさらい≫ - 方程式の解法を理解し、方程式の解と関数のグラフとの結びつきを考察する。 - 関数のグラフと不等式を結びつきを理解し、不等式の処理をすることができる。
	期末 考査 まで	- 図形と計量 - 平面図形 - 面積と体積	≪主に数学Ⅰと数学Aの図形のおさらい≫ - 三角比の意味を理解し、様々な図形の測量の計算をすることができる。 - 複数の平面図形の定理の結びつきを考察し、それらを融合させ、問題解決に努めることができる。
3 学期	年度末 考査 まで	- 文章題 - 集合 - 場合の数と確率	≪主に数学Aの場合の数と確率のおさらい≫ - 文章題を正しく読み抜き、集合の考え方を利用して、問題解決に努めることができる。 - 場合の数と確率の計算から、日常生活での数の意味を実感することができる。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
理科	化学	3	教養	選択	2年次に「化学基礎」を履修	最大20名・ 最少 4名	4
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○ 改訂新編化学（東京書籍） △ フォローアップドリル化学基礎		1 化学が物質を対象とする科学であることや化学が人間生活に果たしている役割を理解できる 2 実験・観察を行い、学習内容を深めるとともに、科学的に探究する能力を高める。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	酸と塩基	酸・塩基の違いを具体的化合物を確認しながら理解する。 中和反応・中和滴定の実験で中和反応の量的関係を理解する。
	期末 考査 まで	酸化と還元	酸化・還元の実験を行い、酸素の授受から酸化反応、還元反応を理解する。 金属のイオン化傾向の違いによってメッキ・電池・電気分解等に利用されていることを具体例を確認しながら理解する。
2 学期	中間 考査 まで	無機物質	教科書で取り上げられている元素と化合物について実験をおこない、その化学的性質を学習する。
	期末 考査 まで	有機化合物	教科書で取り上げられている元素と化合物について実験をおこない、その化学的性質を学習する
3 学期	年度末 考査 まで	高分子化合物	高分子化合物については、利用されている具体的な日常用品を提示しながら、単量体からどのように重合体になるのかを学ぶ。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
理科	生物	3	教養	選択	なし	最大20名・ 最少 1名	4
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○ □		生物学の基本的な概念や原理・原則を理解し、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、科学的に探究する力を養う。 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	生物の進化	生命の起源について、原始地球の環境と関連付けて学習し、細胞の進化が地球環境の変化や遺伝子の変化と関連していることについて理解する。
	期末 考査 まで	生命現象と物質	生物体を構成する主要な物質の化学的な特性を理解し、それらの物質が細胞の構造と機能に密接に関わることを学習する。
2 学期	中間 考査 まで	遺伝子の発現と発生	DNAの分子構造や遺伝子が発現するしくみについて理解する。 動物の発生過程において、さまざまな遺伝子の発現が調節されることにより、細胞が分化し、発生が進行することを学習する。
	期末 考査 まで	生物の環境応答	刺激の受容と反応のしくみについて学習する。 動物の行動について神経系の働きと関連付けて理解する。 植物も環境からの刺激を受容し、それにもとづいて反応したり、成長を調節したりしていることを学習する。
3 学期	年度末 考査 まで	生態と環境	個体群の特徴や、個体群内、個体群間にみられる生物間の関係について学習する。 生物群集の成り立ちと、その中で多様な種が共存するしくみについて理解する。 人間生活が生態系に及ぼす影響を理解し、生物多様性の保全について考える。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
理科	地域の自然	3	教養	選択	なし	最大15名・ 最少 4名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
△G o o g l e サイト		1. 西村山地域の自然とそれを活かした産業について、調査、観察、体験を通して科学的な理解を深める。 2. 西村山地域の自然とそれを活かした産業の魅力を発信する。 3. 身近にある自然との関わり方について考えを深める。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	下記の①～④について、年間を通して探究する。 ① 地域の自然を活かした産業 ア) 西山杉 大江町美しい森林づくり協議会、村山総合支庁森林整備課の協力を得て、月布川流域で行われている林業についての理解を深める。 イ) ブドウ栽培とワイン醸造 朝日町ワインの施設（醸造所、ブドウ畑）、本校のブドウ畑を見学し、自然を生かした果樹生産と、収穫した果樹を用いた産業について理解を深める。 ② 左沢の森 朝日少年自然の家の樹木の道、大山自然公園内に自生している樹木などの生物について理解を深める。	
	期末 考査 まで		
2 学期	中間 考査 まで	③ 最上川がつくる地形 月布川流域、最上川流域の地形地質を観察し、特徴的な地形ができた理由を科学的に考察する。 学校周辺の積層模型を製作し、特徴的な地形を俯瞰し、実際に観察した地形地質の理解を深める。 ④ 身近な自然と自分との関わりについて、SDGsの視点から考えを深める。	
	期末 考査 まで		
3 学期	年度末 考査 まで	上記探究した内容を発表し、西村山地域の自然と、それを活かした産業の魅力を発信する。	

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
保健体育	体育	3	全系列	必履修		最大 名・ 最少 名	3
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○「現代高等保健体育」(大修館書店) □「アクティブスポーツ2022総合版」(大修館書店)		①運動について理解し、運動の合理的な実践ができるようにする。 ②生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てる。 ③体力を向上させる。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	期末 考査 まで	1 体づくり運動(通年) 2 体育理論(通年6回) 3 ラジオ体操第二 4 スポーツテスト 5 選択授業① (1) 球技Ⅰネット型・ペースボール型(バレーボール、ソフトボール) (2) 武道(柔道)	・体ほぐしの運動や体力を高める運動を通して、体を使う楽しさや心地よさを味わい健康の保持増進や体力の向上を図る。 ・体育理論では運動・スポーツの文化的特性や特徴について理解できるようにする。 ・ラジオ体操では第二運動を覚え、試験を実施し体育授業開始時の準備運動として継続させる。
2 学期	期末 考査 まで	6 選択授業② (1) 陸上競技(競走、跳躍、投てき) (2) ダンス(創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンス) 7 選択授業③ (1) 球技Ⅱゴール型・ネット型(バスケットボール・サッカー、バドミントン・卓球) (2) 器械運動(マット、平均台、跳び箱)	・スポーツテストを実施し、自分の体力の現状を把握することで体力の向上につなげる。 ・選択授業①では球技Ⅰ、武道から1種目を選び、基本的技能を習得しながら、現状の能力で試合ができるようにする。 ・選択授業②では陸上競技、ダンスから1種目選び取り組む。陸上競技では記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わいペースの変化等に対応して走れるようにする。ダンスでは、全身を使い、仲間と対応して踊ることができるようにする。 ・選択授業③では球技Ⅱ、器械運動から1種目選び、基本的技能を習得しながら、現状の能力で試合をしたり演技したりできるようにする。
3 学期	年度末 考査 まで	8 選択授業③ (1) 球技Ⅱゴール型・ネット型(バスケットボール・サッカー、バドミントン・卓球)	・球技においては勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間との連携したゲームを楽しめるようにする。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
芸術	音楽 III	3	全系列	選択必修	音楽Ⅱを履修済みであること	最大 22名・ 最少 1名	2
○使用教科書 口副教材等 △その他		学習目標					
○ Joy of Music(教育芸術社) △ 学習プリント (随時)		音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期	単 元	学習内容・学習活動
1 学期	歌唱Ⅰ（表現・鑑賞）	☐ 表現のための技能を高めよう。 表現意図をもって歌おう（ポップス）。
	器楽Ⅰ（表現・鑑賞）	ギターで弾き語りをしよう。 ギターコードを学ぼう。
	創作Ⅰ（表現）	記譜法を学ぼう。
2 学期	歌唱Ⅱ（表現・鑑賞）	表現意図をもって歌おう（オペラ・オペレッタ・ミュージカル）。
	器楽Ⅱ（表現・鑑賞）	世界の音楽に親しもう。表現意図をもって演奏しよう（箏曲）。
	創作Ⅱ（表現）	弾き語り曲のアレンジをしよう。
3 学期	歌唱Ⅲ（表現・鑑賞）	表現意図をもって歌おう（歌曲・その他）
	器楽Ⅲ（表現・鑑賞）	日本の伝統音楽に親しもう。
	創作Ⅲ（表現）	まとめのコンサートをしよう。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
芸術	ピアノ実習 b (学校設定科目)	3	教養系列他	選択	鍵盤楽器を所有 しており自宅で 予習・復習が可 能であるもの	最大 9 名・ 最少 1 名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
□ 市販のピアノ 教則本及び曲集 (5,000円程度)		1 ピアノの基礎的な奏法を身につけて演奏することの喜びを味わう。 2 自分で選択した楽曲を繰り返し練習することにより音楽の特徴や奏法 を理解して表現することができる。 3 アンサンブル（連弾）の学習を通してアンサンブル能力やコミュニ ケーション能力を身につける。					

評価の観点	各観点の 比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1. 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点 満点	(5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1)
② 思考・判 断・表現				100点満点 (A B C)		
③ 主体的に学 習に取り組 む態度				100点満点 (A B C)		

学 期	単 元	学習内容・学習活動
1 学期	1 難易度による コース分け	既習曲の聴きとりおよび（初級・中級・上級）への コース振り分け。
	2 独奏の練習・レッスン	個人毎に教則本からの課題曲・選択自由曲を練習し レッスンを受ける。 一学期のまとめと発表会を行う。
2 学期	3 独奏の練習・レッスン	個人毎に教則本からの課題曲・選択自由曲を練習して レッスンを受ける。
	4 連弾の練習・レッスン	連弾曲を選択し、練習してレッスンを受ける。 二学期のまとめと発表会を行う。
3 学期	5 独奏と連弾の練習 およびレッスン	個人毎に教則本からの課題曲・選択自由曲を練習して レッスンを受ける。 三学期のまとめと発表会を行う。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
芸術	ポピュラー (学校設定科目)	3	教養系 列他	選択	なし	最大 16名・ 最少 1 名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
特になし		1 ポピュラー音楽についての基礎知識を身に付けてポピュラー音楽に親しむ。 2 ポピュラー音楽の特徴を捉えて表現の能力を身に付ける。 3 さまざまなポピュラー音楽の文化的背景や社会との関りを理解し味わう。					

評価の観点	各観点の 比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点 満点	(5・4・3・2・1) 5 段階
②思考・判断・ 表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に 学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期	単 元	学習内容・学習活動
1 学 期	1 ポピュラー入門	ポピュラー音楽についての概論
	2 ポピュラー器楽実習	(1) コード概論 (2) 鍵 盤：簡単なメロディーとコードによる両手演奏 ギター：簡単なコード伴奏による弾き語り
2 学 期	3 ミュージカル概論	『CAT's』 『オペラ座の怪人』 『マイフィアレディ』 『レ・ミゼラブル』 『REND (レント) 』他
	4 ポピュラーバンド実習	ボーカル (ソロ・コーラス)、エレキギター、キーボード、 ベース、ドラムスのパート分けと実習
3 学 期	5 弾き歌いに挑戦 6 発表会	各自の選択曲による演奏 まとめの演奏会 (企画立案・運営方法・発表までの段取りについて)

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
芸術	デッサン基礎	3	教養	選択	なし	最大25名・ 最少1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○なし □なし △材料費等で1500円集金します。 プリント、資料等配布します。		(1) デッサンとは何か、基本姿勢や用具の扱い方を学ぶ。 (2) 構図、形のとり方に注意しながら描いていく。石膏像や静物などをよく観察し、明暗の差を捉えながら立体感や空間を表現する。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能	これから決めます	現在検討中です。		100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	※定期考査は実施しません。	1 デッサンについて学ぶ 2 鉛筆で明暗の調子を段階的に作り出す。 3 幾何形立体模型のデッサン 4 反省と鑑賞	(1) デッサンとは何か、基本姿勢や用具の扱い方を学ぶ。 (2) 鉛筆と練り消しゴムの使い方を学ぶ。 (3) 幾何形の特徴を確認し、形のとり方について学ぶ。 (4) 合評会において鑑賞、自己評価をおこなう。
2 学期	※定期考査は実施しません。	5 パネルの水張り 6 静物単体のデッサン 7 静物組み合わせモチーフのデッサン 8 合評会	(1) 水張りの意味とやり方を学び、パネルに画用紙を水張りする。 (2) 構図、形のとり方に注意しながら描いていく。アウトラインだけで描かないよう注意する。 (3) 明暗の調子を捉える。 (4) 合評会において鑑賞、自己評価をおこなう。
3 学期	※定期考査は実施しません。	9 人物デッサン 10 合評会	(1) モデル、描き手の両方の立場を経験しクロッキーについて学ぶ。動勢、構造を理解しながら描いていく。 (2) 講評会において鑑賞、自己評価をおこなう。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
外国語	英語コミュニケーションⅡ	3	全系列	必履修		最大 名・ 最少 名	3
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○「All Aboard! English Communication Ⅱ」（東京書籍） □「All Aboard! English Communication Ⅱ WORKBOOK」（東京書籍） △授業内容に合わせワークシート等を配布します		英語の特徴やきまり、背景にある文化などについての理解を深めるとともに、目的や場面、状況などに応じて、英語を適切に活用できる能力を身に付け、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	Lesson 6	Seeds for Future Generations 伝統野菜を未来につなぐ 目的語になるif節
	期末 考査 まで	Lesson 7	Over the Wall アートで世界をつなぐ 関係副詞
2 学期	中間 考査 まで	Lesson 8	Inspiration from Nature 自然のデザインに学ぶ 知覚動詞
	期末 考査 まで	Lesson 9	The Bitter Truth behind Chocolate 甘いチョコレートの苦い現実 使役動詞
3 学期	年度末 考査 まで	Lesson 10	Fighting Angel ナイチンゲール 分詞構文

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
外国語	論理・表現Ⅱ	3	教養系列他	選択	2年次に「論理・表現Ⅰ」を履修	最小1名～ 最大20名程度	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○未定 □未定 △四大・短大などへの進学希望者を対象とする		・論理・表現Ⅰで身につけた事項を「活用する」ことで更に理解を深める。 ・社会的な話題について、「聞く」「話す」の対話や「書く」活動を通して英語表現を使えるようにする。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで		
	期 末 考査 まで		
2 学期	中間 考査 まで		
	期 末 考査 まで		
3 学期	年度末 考査 まで		

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
外国語	英語会話	2	教養系列他	選択	2年次に同科目を履修した者は履修不可	最大20名・ 最少2名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
未定		英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考查 まで	自分や他人を紹介する	・自己紹介 ・インタビュー ・学校生活
	期末 考查 まで	興味があることについて話をする	・好きなもの ・趣味 ・休暇 ・買い物
2 学期	中間 考查 まで	食べ物や健康について話をする	・食事 ・体調 ・病院 ・レストラン
	期末 考查 まで	自分の住む国や地域について話をする	・地域の紹介 ・伝統文化
3 学期	年度末 考查 まで	自分の生活と地球への関わりについて話をする	・家庭内の役割 ・異文化

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
外国語	中国語会話	3		選択		最大 12名・ 最少 3名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
		中国語の学習を通して、中国語によるコミュニケーション能力の基礎を養い、状況に応じた簡易な会話をする能力を身に付けるとともに、隣国への興味・関心を高める。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 検査 まで	1、中国・中国語について 2、あいさつ・決まり文句 3、発音編 4、本文編：第1課「大家好！」 第2課「你喜欢什么？」 第3課「学习外语很有用。」 第11課「我家有四口人。」 5、中国語の文化・習慣について	1、発音と表記（ピンイン・簡体字）☆一年間を通して定着させる。 2、自己紹介について①（自分の名前・学校名・学級・クラス・国籍） 3、数字・年齢の言い方・年月日 4、自己紹介について②（好きな食べ物や趣味、家族など） 5、中国語の文化・習慣について①「端午節」
	期末 検査 まで		
2 学期	中間 検査 まで	本文編：第3課「学习外语很有用！」 第4課「为什么呢？」 第5課「我想尝尝水饺子。」 第6課「你是警察吗？」 第7課「我去饭店吃饭。」 第9課「一共几杯？」 第12課「这次能赢吗？」 第13課「比上次好。」 第14課「开个玩笑！」 中国語の文化・習慣について②	一、1、完了を表すアスベスト助詞“了”「～した」、語気助詞“了” 2、連動文・「～したい」を表す助動詞“思” 3、「存在」を表す“有” 4、比較文「AはBと同じ」の“A和B一样” 「～と比べて、～より」の“比” 5、動詞の重ね方「ちょっと～する」 6、“吗”疑問文・指示代名詞・形容詞述語文 7、「～できる」を表す助動詞“能”・“会” 8、二者択一の選択疑問の“还是” 二、中国語の文化・習慣について②「中秋節」
	期末 検査 まで		
3 学期	年度末 検査 まで		1、発表会に向けての準備 2、発表会の練習 3、発表会～「春節」にちなんで、中国語の文化・習慣について③

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
情報	情報Ⅱ	3	教養	選択	なし	24	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○情報Ⅱ（日本文教出版）		情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解するとともに、情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得し、情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を身に付ける。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点（A B C）	100点満点	（5・4・3・2・1）
②思考・判断・表現				100点満点（A B C）		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点（A B C）		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	データベース	表計算ソフトを利用して、大規模データの整理と処理の仕方を学ぶ。
	期末 考査 まで	データサイエンス	表計算ソフトを利用して、日常的な問題を数値で可視化し、問題解決の糸口をつかむ方法を学ぶ。
2 学期	中間 考査 まで	問題解決	社会にある問題解決に向けて、コンピュータを利用して、調査、整理、考察し、自分なりの解決方法を提案し、発表する。
	期末 考査 まで	WE B コンテンツの制作	WE B コンテンツの制作を通して、毎日目にするWE B ページのしくみと、メディアとしての特性を理解する。
3 学期	年度末 考査 まで	メディアプランニング	学校紹介映像の制作とプレゼンテーションを通して、映像というメディアの特性を学び、情報を伝えるのに効果的な方法を考える。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
農業	課題研究	3	果樹園芸	選択	2年次農業科目をいずれか一つ以上選択した者	最大20名・最少1名	4
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○なし△実習着および帽子の着用、長靴等の準備 2年次に「農業と環境・総合実習」「果樹」「食品製造」「植物バイオテクノロジー」のいずれかもしくはすべてを履修した者のみ受講可能		農業に関する課題を自ら設定し、農業や農業産業に携わるものとして解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。また、自ら課題解決能力の向上を目指し、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	期末 考查 まで	1 課題研究の意義とテーマの設定	(1) 課題研究の研究分野を参考にテーマ設定 ◇調査・研究・実験 ◇作品製作 ◇産業現場実習 ◇職業資格取得 ①農業生産技術、環境、流通、消費及び実験に関する研究を中心に課題を探る ②プロジェクト学習を基礎に、研究の到達目標を設定する (2) テーマに関する情報、資料の事前調査
		2 課題研究活動の実践	(1) 研究活動計画の作成 ①テーマの選定理由 ②研究の到達目標 ③年間活動計画の作成 ④調査・実験・活動内容 ⑤必要資材と経費
2 学期	期末 考查 まで	2 課題研究活動の実践	(2) 研究活動の実践と記録 ※ 栽培系研究の例 ①播種(種まき)から収穫まで、栽培管理と作業の記録 ②生育調査や観察スケッチ等の記録 ③病害虫の防除や除草 ④収穫と調製作業、販売活動 ⑤経営収支の記録と経営診断 ⑥生産物の加工と消費拡大への取組み
		3 研究活動のまとめと発表	(1) 研究活動のまとめ (まとめの一例) ①テーマ選定の理由 ②研究の到達目標 ③年間活動計画 ④研究実施概要 ⑤研究の成果・まとめ ⑥評価と今後の課題
3 学期	年度末 考查 まで	3 研究活動のまとめと発表	(2) 活動発表・プレゼンテーション発表 ①1テーマ10分程度の研究活動発表 ②お互いの成果を評価し合い意見交換する (3) 年間活動のまとめと今後の課題 ①年間を通した研究活動の自己評価やまとめを行う ②今回の研究活動における今後の課題を提示、次テーマへの手がかりとする

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
農業	草花	3	果樹園芸	選択	なし	最大20名・最少1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○草花（実教出版） △6000 円（実習着上下、帽子、長靴）		草花の生産と経営について、体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を習得させ、課題を発見し、農業や農業関連産業に携わるものとして合理的かつ創造的に解決する力を養う。また、生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点（A B C）	100点満点	（5・4・3・2・1）
②思考・判断・表現				100点満点（A B C）		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点（A B C）		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	期末 考査 まで	1 草花生産と消費の動向 (1) 草花園芸の特徴 (2) 草花生産と消費の動向 2 草花の特性と栽培技術 (1) 草花の生育と環境 (2) 品種改良と繁殖 (3) 草花の環境と栽培技術 (4) 生産施設と栽培環境の調節	《主な実習》 花壇苗の生産・管理（マリーゴールド、ペチュニア、ニチニチソウ、サルビア等） 販売実習 草花の繁殖（種子・挿し木） プロジェクト学習（アジサイ）
2 学期	期末 考査 まで	3 花壇用草花生産 (1) 花壇用草花生産の特色 (2) 花壇用草花の栽培 4 生活と草花の利用 (1) 草花の多面的利用 (2) 園芸デザイン	《主な実習》 花壇デザイン フラワーアレンジメント コンテナガーデン（寄せ植え） シクラメンの栽培・管理 パンジー・ビオラの栽培・管理 販売実習 草花の繁殖（種子・挿し木） プロジェクト学習（アジサイ） プロジェクトまとめ・発表
3 学期	年度末 考査 まで	5 鉢ものの生産 (1) 鉢ものの生産の特徴 (2) 鉢ものの生産資材と商品化技術 (3) 鉢花	《主な実習》 プリムラ類の栽培・管理 サイネリアの栽培・管理 販売実習 草花の繁殖（種子・挿し木）

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
農業	果樹	3	果樹園芸	選択	2年次「果樹」選択者のみ履修可	最大20名・最少1名	4
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○果樹（実教出版）		1 県特産果樹の栽培から出荷まで、各果樹生産の特徴について学習を深める。 2 果樹の生育の特性と主な栽培管理を理解しながら実践する。 3 実際の果樹経営を想定し、栽培と経営の両面からの評価が出来、問題解決に臨む力を養う。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技術				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期		果樹の種類と果樹栽培の動向 果樹の栽培管理	果樹の種類と分類 果実の構造 果実の食料的価値とその利用 果実の生産と消費の現状 苗木の育成 ※栽培管理実習 ①オウトウ：摘蕾、摘果、人工受粉、着色管理、収穫など ②リンゴ：摘花、摘果、新梢管理 ③ブドウ：結果母枝の誘引、芽かき、新梢管理、摘房、摘粒など ④セイヨウナシ：摘花、摘果、新梢管理など
	期末 考査 まで		
2 学期		果樹の生育と栽培環境 果樹の栽培管理	果樹の生育と生理 果実の生育とその一生 根・枝・葉の成長 開花と結実 果樹栽培と環境 栄養と施肥 ※栽培管理実習 ①オウトウ：施肥、新梢管理、せん定 ②リンゴ：新梢管理、袋かけ、着色管理、収穫、施肥、せん定など ③ブドウ：新梢管理、袋かけ、収穫、施肥、せん定 ④セイヨウナシ：新梢管理、収穫、予冷、貯蔵、施肥、せん定など
	期末 考査 まで		
3 学期	年度末 考査 まで	2年次、3年次のまとめ	果実の流通と経営改善 ※栽培管理実習 せん定及び雪害対策など

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
農業	食品製造	3	果樹園芸	選択	2年次「食品製造」を履修していること	最大14名・ 最少1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○食品製造（実教出版）		1 穀類、野菜、果実などの加工法を学び、それぞれの素材の持つ特徴を理解し、製造法の原理と製造方法を習得する。 2 肉、牛乳、鶏卵の成分の特徴と加工特性を理解し、各種畜産加工品の製造原理と工程、製造に必要な基礎・基本的な知識・技術を身につける。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技術				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期		食品製造の意義と動向	食品製造の意義 食品産業の現状と動向 ※各種製造実習
	期末 考査 まで		
2 学期		食品加工と食品衛生	食品と食品衛生 食中毒 食品による危害と安全確保 食品添加物 ※各種製造実習
	期末 考査 まで		
3 学期	年度末 考査 まで	2年次、3年次のまとめ	食品製造のまとめ ※各種製造実習

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
農業	植物バイオテクノロジー	3	果樹園芸	選択	2年次に「植物バイオテクノロジー」を履修したもの	最大20名・最少1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○植物バイオテクノロジー（実教出版） △実験・実習の時には、白衣を着用。長い爪や装飾品は雑菌の混入のもとであるため厳禁とする。		2年次に習得した植物バイオテクノロジーの基礎的な知識と技術を応用し、実践的・体験的な課題解決学習を通し、農業生産や国土保全、環境創造の視点で課題を発見し、合理的・創造的に解決する能力を養い、農業の各分野で活用するために自ら学び、農業の振興や社会貢献に種々のかつ協同的に取り組む態度を養う。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	期末 考査 まで	1 植物の増殖能の利用	(1) 組織培養の目的と技術体系 (2) 培地の組成と調整 (3) 培養植物体の生育と環境 (4) 園芸植物の組織培養の実際 ① ラン類の組織培養・増殖 ② 山野草の組織培養・増殖 ③ イチゴの茎頂培養 プロジェクト学習（ヒメサユリの栽培・培養）を一年間通し行う 毎時間の記録・観察をし、最後はまとめ・発表を行う
2 学期	期末 考査 まで	1 植物の増殖能の利用	(5) 作物・果樹への応用 ① イモ類の茎頂培養と苗生産 ② オウトウの胚培養 ③ その他果樹の組織培養
		2 植物の遺伝情報の利用 3 バイオマスエネルギーの利用 (2) 有機廃棄物の利用	(1) 細胞融合の仕組み (2) 遺伝子組み換えの仕組み (1) バイオマス資源の利用
3 学期	年度末 考査 まで	4 植物バイオテクノロジーの展望	(1) 農業と植物バイオテクノロジー (2) 植物バイオテクノロジー活用の展望

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
農業	生物活用	3	果樹園芸	選択	なし	最大20名・最少1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○生物活用（実教出版） △6000 円（実習着上下、帽子、長靴）		園芸作物の栽培・利用、社会動物とのふれあいや飼育を心身の健康及び社会的な健康の視点から捉え、その効用を生活の質の向上と関連づけて考察するとともに、実践的・体験的な課題解決学習を通して、園芸作物や社会動物の活用に必要な資質・能力を育成する。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	期末 考査 まで	1. 生物活用の意義と役割 (1)生物を活用した療法 (2)園芸療法 (3)動物介在療法	《 実習 》 ・フラワーデザイン用草花の栽培 (ヘリクリサム、ケイトウ、ワタ、スターチス、ラベンダーなど) ・サツマイモの定植と管理 《 交流学习活動 》 山形県立楯岡特別支援学校大江校との 交流学习（花壇苗の定植）
2 学期	期末 考査 まで	2. 園芸作物の栽培と活用 (1)草花の栽培と活用 (2)野菜・ハーブの栽培と活用	《 実習 》 ・フラワーデザイン用草花の栽培管理・収穫 (ヘリクリサム、ケイトウ、ワタ、スターチス、ラベンダーなど) ・サツマイモの栽培管理と収穫 ・冬野菜の栽培管理と収穫 《 展示作品製作 》 リース製作 《 交流学习活動 》 山形県立楯岡特別支援学校大江校との 交流学习（野菜・作物の収穫など）
3 学期	年度末 考査 まで	3. 動物の飼育と活用 (1)イヌの飼育と活用 (2)ウマの飼育と活用 (3)ネコの飼育と活用 (4)その他動物の飼育と活用	

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
商業	課題研究	3	総合ビジネス	選択	「ソフトウェア活用」「財務会計Ⅰ」のいずれか、もしくは両方を履修しているもの	最大15名・ 最少3名	4
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
なし		1 商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術を習得する。 2 2年次で取得できなかった資格や上級資格の取得を狙う。 3 様々なアプリケーションソフトを活用した作品制作ができる。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期		1 職業資格の取得	(1) 上級資格を取得するための学習を行う。 (簿記、情報処理、電卓、ワープロ)
		2 作品制作	(1) 学校紹介のリーフレットとポスターを作成する。 (Windows Publisher, Word)
2 学期		3 調査・研究	(1) 商業科に関する科目の内容に関連した調査・研究をおこなう。 (2) レポートを作成する。 (3) 作成したレポートをもとにパワーポイントを利用しながらプレゼンテーションをおこなう。 (Windows PowerPoint)
3 学期		4 作品制作	(1) 広告宣伝に関わる作品を作成し、その効果について学習する。 (Windows Movie Maker)

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
商業	財務会計Ⅰ	3	総合ビジネス	選択	2年次に「簿記」を履修した者	最大15名・ 最少3名	4
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
		1 財務諸表の作成、公表とその利用法を学び、経済活動に役立てる能力と資質を養う。 2 全商簿記検定2級程度の知識を身につけ、資格取得に挑戦する。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考查 まで	○決算	(1) 費用・収益の繰り延べ見越し (2) 有価証券の評価 (3) 減価償却 (4) 決算整理のまとめ (5) 精算表・貸借対照表・損益計算書
	期末 考查 まで	○本支店会計	(1) 本支店間の取引について学習する (2) 本支店の財務諸表の合併について学習する
2 学期	中間 考查 まで	○株式会社の記帳	(1) 株式会社の設立・開業・株式の発行 (2) 剰余金の処分 (3) 株式会社の税金
	期末 考查 まで	○特殊な手形取引の記帳 ○その他の取引 ○総合問題	(1) 手形の書き換え・不渡手形・営業外手形 (1) 固定資産の売却 (1) 総合記帳演習
3 学期	年度末 考查 まで	○総合演習	1月に全商簿記検定2級を受験 問題集等を用いて、これまでの学習の総まとめをする

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
商 業	ソフトウェア活用	3	総合ビジネス系列 他	選択	2年次に「情報処理」を履修したものの	最大15名・ 最少3名	4
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	1 企業活動とソフトウェアの活用	1 ビジネス文書の作成 ビジネス文書を作成するにあたって注意すべき文章の表現方法や構成要素、図形や画像などの編集・活用方法を学習する。(W o r d ・ワード) ◆全商ビジネス文書実務検定2級や1級にチャレンジする。
	期末 考査 まで	2 表計算ソフトウェアの活用	2 表計算ソフトウェアの活用 2年次の情報処理に引き続き、表計算ソフトウェアの関数について学習する。(E x c e l ・エクセル) ◆日検情報処理(表計算) 検定の2級にチャレンジする。
2 学期	中間 考査 まで	3 データベースソフトウェアの活用	(W o r d ・ワード) ◆全商ビジネス文書実務検定1級にチャレンジする。
	期末 考査 まで		3 データベースソフトウェアの活用 表計算ソフトウェアのデータベース関数を中心に学習する。(E x c e l ・エクセル) ◆全商ビジネス情報処理検定の2級の取得に向けて学習する。
3 学期	年度末 考査 まで	4 情報通信ネットワークの活用	4 情報通信ネットワークの導入と運用、情報資産の保護について学習する。 ◆全商ビジネス情報処理検定の2級にチャレンジする。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
専・家庭	保育基礎	3	全系列	選択	なし	最大20名・ 最少 2名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
△教材・実習費 1500円		・子どもの発達や生活の特徴・子どもの福祉や文化について理解する。 ・保育に関連する基本的な技術を身につける。 ・子どもに関心をもちかかわろうとする意欲と、実際にかかわることができる実践的態度を身につける。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期		1章 子どもの保育 1 保育の意義 2 保育の方法 3 保育の環境	・子どもの健やかな発達のための保育の必要性和意義を理解する。 ・基本的な保育の方法や保育の環境について理解する。
	期末 考査 まで	2章 子どもの発達 1 子どもの発達の特性 2 子どものからだの発達 3 子どもの心の発達 ◎体験学習	
2 学期		3章 子どもの生活 1 子どもの生活と養護 2 生活習慣の形成 3 健康管理と事故防止	・子どもの生活と適切な養護について理解する。 ・離乳食作り ・基本的な生活習慣と社会的な生活習慣 ・子どもの健康管理と事故の実態と防止について
	期末 考査 まで	4章 子どもの文化 1 子どもの文化の意義と支える場 2 子どもの遊びと表現活動 5章 子どもの福祉 1 子ども観	
3 学期	年度末 考査 まで	2 子どもの福祉 3 子育て支援	・児童福祉、子どもをとり巻く課題と対策について ・子育て支援について

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
専・家庭	生活と福祉	3	全系列	選択	なし	最大16名・ 最少 2名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
△教材・実習費 1500円		・高齢者の健康と生活、介護などに関する基礎的な知識と技術を身につける。 ・地域の高齢者の生活に関心をもち、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的に取り組む態度を養う。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期		1章 人の一生と生活・健康 1 健康の概念 ・健康とは ・高齢社会における健康とQOL ・健康に影響を及ぼす要因	・健康の概念について理解する。 ・ライフステージごとの健康問題の特徴と健康管理について理解する。 ・生活習慣病の予防について ◎特別養護老人ホーム「大寿荘」での講義
	期末 考査 まで	2 ライフステージと健康管理 ・ライフステージと健康 ・生活習慣と健康	
2 学期		2章 高齢化の現状と高齢者の特徴 1 高齢化の現状 ・人口の高齢化 ・家族・地域の変化 2 高齢者の心身の特徴と病気 ・高齢者の心身の特徴 ・高齢者の病気 3 高齢者の生活課題と施策	◎心肺蘇生法講習・救急法講習（外部講師） ・日本の高齢化の特徴・現状と家族・地域の変化について ・高齢者の心身の変化について理解する。 ・高齢者の病気の特徴について理解する。 ・生活課題とその対応 ・高齢者介護の基本として、自立的支援の考え方を理解する。 ◎特別養護老人ホーム「大寿荘」での講義
	期末 考査 まで	3章 高齢者の自立生活支援 1 自立生活支援の基本となる考え方	
3 学期	年度末 考査 まで	2 高齢者介護 4章 高齢者支援の法律と制度	・基本的な介護について ・社会保障、社会福祉制度のしくみについて理解する。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
専・家庭	フードデザイン	3	全系列	選択	なし	最大20名・ 最少 4名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
△実習費・検定料 6000円		・食生活の充実向上を目指し食育を推進し、自ら進んで取り組むことができる。 ・栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を身につける。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期		第1章 食生活と健康 1. 食事の意義と役割 2. 食をとりまく現状 ◎調理実習1～3回	・5つの栄養素のはたらきについて復習する。 ・食生活の意義と役割について理解する。 ・食をとりまく現状について理解する。 ・調理実習に関連した調理操作と食品の特性性質について理解する。 ・検定に関する筆記問題の演習、実技の練習を行い、検定を受験する。
	期末 考查 まで	第3章 食品の特徴・表示・安全 第4章 調理の基本 ◎食物調理技術検定4級の練習・受験	
2 学期		◎調理実習4～7回 第3章 食品の特徴・表示・安全 第4章 調理の基本	・調理実習に関連した調理操作と食品の特性性質について理解する。 ・朝食または昼食の献立作成を行い、実習する。 ・興味のある分野について各自テーマを決め、調べ学習を行う。(3学期に提出) ・検定に関する筆記問題の演習、実技の練習を行い、検定を受験する。
	期末 考查 まで	◎献立作成 ◎調べ学習(レポート作成) ◎食物調理技術検定3級の練習・受験	
3 学期	年度末 考查 まで	第5章 料理様式とテーブルコーディネート 1. 日本料理の様式と献立 2. 西洋料理の様式と献立 ◎調理実習8回	・それぞれの料理の特徴を理解し、献立と食卓作法について学ぶ。 ・レポート提出

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
保健体育	スポーツⅤ	3	全系列	選択		最大20名・ 最少4名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○「現代高等保健体育」(大修館書店) アクティブスポーツ2022総合版		□		①野外の活動について理解し、その知識と技能を習得できるようにする ②自然の中での行動の仕方を身に付け、自然に親しむことのできる資質を育てる ③事故や災害の危険が潜んでいることを理解し、安全に行うための知識や計画の立て方、事故防止の方法とその技能を習得する			

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (ABC)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (ABC)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (ABC)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期	期末 考査 まで	1 自然保護活動 2 自然体験型野外活動① 3 レクリエーション活動①	・学校周辺の環境整備、散策などを行い自然の大切さや、適切な行動について学ぶ ・自然の冒険コースで、崖の上り下りやアスレチックに挑戦し、自然を満喫する ・ニュースポーツであるグランドゴルフを通して、生涯を通じて行えるスポーツのあり方を身につける
2 学期	期末 考査 まで	4 自然体験型野外活動② 5 レクリエーション活動② 6 自然体験型野外活動③	・A型テント、ドーム型テントを協力して設営し、キャンプ実習の基礎知識を身につける ・プラネタリウムで春夏秋冬の星座を鑑賞し、星空の感動を味わう ・フィッシング活動を通して、自然に学び親しみ、釣りの魅力に触れると同時にマナーを守り、自然を大切にすることを育てる ・班別で粉から作る手打ちうどんに挑戦し、出来栄を競う ・焼き板工作で、自由に創作し表現する
3 学期	年度末 考査 まで	7 競技型野外活動	・冬自然の中で活動する喜びを感じ、冬シーズンのレジャー活動として積極的に取り入れることができるようにする

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修条件	履修人数	単位数
	総合的な探究の時間	3		必修	なし	最大 名・ 最少 名	1
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標					
○なし □未定		1 自ら課題を発見し、自ら学び、考え、問題を解決する資質や能力を身につけるとともに、自己のあり方、生き方について考える。 2 情報収集や整理・分析する能力を身につけ、協働的・創造的に探究活動に取り組みながら、自らの考えをまとめ、表現できるようにする。 3 小論文・作文（志望理由書）に取り組みながら、自らの意見をまとめる。 4 卒業後の社会生活を意識し、社会人として必要な能力を身につける。					

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1. 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能				100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現				100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度				100点満点 (A B C)		

学 期		単 元	学習内容・学習活動
1 学期		1 課題探究Ⅱ	2年次で設定した個人のテーマについて探究し、文章にまとめる。
		①進学・就職にむけてⅠ	(1) 小論文・作文演習 (2) 進路室の使い方・求人票の見方 (3) 願書・履歴書の書き方 (4) 面接練習・志望の動機
2 学期		②進学・就職にむけてⅡ	(1) ロータリークラブによる面接指導 (2) 小論文・作文・面接練習（個別） (3) 企業研究
		2 課題探究Ⅱ	(1) PCでレポート作成
3 学期		③まとめ	(1) 進路体験をまとめてみよう 後輩へのメッセージ (2) ビジネスマナー（外部講師）